

## ハート形の島からのメッセージ

香川県立高松西高等学校  
普通科1年 山下友大

世界遺産に登録されているクレイドルマウンテン。タスマニアンデビルなどの固有の動物たちは現代普及しているネット環境によって表面的な情報を得ることはできます。しかし私は現地に行かないと分からないタスマニアの自然と動物の多様性について自分の目で体感したいと思い、この派遣事業に応募させていただきました。

私たちの派遣の舞台であるロンセストンは、シドニー、ホバートに次いで3番目に古い都市です。人口は約9万人で19世紀前半にイギリスの田舎町を参考に作られており、素朴の中に活気がある街並みが広がっています。また、他国では見られない内陸にある渓谷、滝、鍾乳洞、ダムなど驚くほどしっかりと保存された手つかずの大自然が広がっていました。今回は多くの自然、動物の多様性について気づいたことを2点挙げて述べたいと思います。

1点目は、誰もが知っている固有の動物であるタスマニアンデビルに関してです。この動物が現在 DFTD(致死率 100%の感染症がん)により絶滅に迫られているとは、正直想像もできませんでした。ホストファザー曰く 2009 年の調査結果によれば 70%も個体数が減少しているそうです。そんな中で、ボノロング動物自然保護施設は種の飼育・繁殖や研究が行われている唯一の施設です。この施設の研究所ではタスマニアンデビルを絶滅の危機から救うための研究が日々行われています。タスマニアデビルは州の宝であり絶滅させてはいけないという多くのタスマニアの研究者や地域の方々の活動の成果の結果ワクチンの開発や、がんに対して強い抵抗力を持った個体が誕生し始めています。タスマニアンデビルが見られたり、触れ合ったりできるのは当たり前なことではなく、多くの人の支えがあるからなんだと身に沁みました。

2点目は、タスマニアの自然環境に関してです。WMO(世界気象機関)の調査により、世界一環境汚染が少なく空気のきれいな地域と世界から賞賛されている秘密は隠されていました。それは、面積の3分の1が世界遺産エリアで17もの国立公園があり、エコツーリズムが盛んだということです。家の周りを走り回る小動物、身近にあるダムや峡谷など生活に自然が溢れている。すなわち自然と日頃から共生している点が大きく関係しているのだと思いました。日本では、動物たちを危ない存在と認識して排除してしまうことがニュースで報道されています。動物たちと人間とが住みやすい環境を作り自然を大切にしていかなければならないことをタスマニアは私たちに伝えてくれているのではないのでしょうか。もう1度私自身も身近な自然との関わり方について見直したいです。

私は3歳から英語を勉強してきましたが、海外に行ったことがなく小さい頃からの憧れ

でしたが、今回実現することが出来ました。そして、最高のメンバーに囲まれて多くの充実した経験をさせていただき、人間的にも成長できました。しかし今回の経験から見てきた多くの課題もあります。将来世界で活躍したいという夢に向かってこれからも一心一意に頑張ります。最後になりましたが私にこのような貴重な機会を与えてくださった関係者の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



▲8月1日 プロスペクトハイスクール全校集会で空手の説明・実演